

「ら抜き言葉」の使用対象動詞の広がりを探る一考察 —母語話者と日本語学習者を対象に—

辛 昭静

要 旨

本研究は、母語話者と日本語学習者を対象に、「ら抜き言葉」の使用対象動詞の広がりを調査し、可能表現の形（「ーレル」型・「ーラレル」型）と、(1) 可能表現の意味（能力可能・状況可能）、(2) 動詞+使役の助動詞（「来させる」「食べさせる」）、(3) 補助動詞（「～てあげる」）との関係を明らかにすることを目的とする。

分析の結果、①可能の意味による「ーレル」型・「ーラレル」型の使い分けは行われていないこと、②動詞+使役の助動詞の可能表現として「ーレル」型が使われていること（例：「来させれる」「食べさせれる」）、③補助動詞の可能表現として「ーレル」型が使われていること（例：「教えてあげれる」「手伝ってあげれる」）が確認できた。この結果については、母語話者と日本語学習者の傾向が一致していた。

【キーワード】可能表現、可能の意味、動詞+使役の助動詞、補助動詞

1. はじめに

一段活用動詞・カ行変格活用動詞の可能表現の変種である「ら抜き言葉」については、様々な観点から使用に影響を与える言語内的要因を探る研究がなされてきたが、その大半は単純動詞に焦点を当てたものである。唯一、東京方言話者を対象にした 200 時間以上に及ぶ自然談話資料を分析した Matsuda (1993) は、単純動詞の他にも、複合動詞、動詞+使役の助動詞、補助動詞の可能形の 4 つに焦点を当て、「ーレル」型の使用をみている。その結果、「ら抜き言葉」は単純動詞にしか現れない⁽¹⁾と報告している。辛 (2003) は、単純動詞と複合動詞の対項目を用意し、単純動詞と複合動詞における「ーレル」型・「ーラレル」型の使用パターンを比較している⁽²⁾。この 2 つの研究の他には、「ら抜き言葉」の使用対象動詞の広がりを探る研究は見当たらない。

また、中田 (1982)、加藤 (1988) など、「ーラレル」型から「ーレル」型への移行に意味的な面が関与しているか否か、可能の意味との関連性を探る研究もなされてき

た。しかし、その結果が必ずしも一致しているわけではない。

受身・可能・尊敬・自発の複数の意味を担う「ーラレル」型が使われていたところに、可能専用の「ーレル」型が普及する言語変化は、表現の簡略化・明瞭化と捉えられる。もし、「ーレル」型（「ら抜き言葉」）がさらに普及し、完全に定着すれば、「する」と「来る」を除いた全ての動詞の可能表現が同じルール（「語尾ウ段をエ段に変えて、ルをつける」）で作れることになる。このルールは、日本語学習者にとって、合理的で習得しやすいものである。そこで、日本語学習者は、「ーレル」型をどのように受容しているかを調べてみる。

2. 調査の概要

2.1 調査の目的

本研究では、母語話者と日本語学習者を対象に、「ら抜き言葉」の使用対象動詞の広がりを調査し、可能表現の形（「ーレル」型・「ーラレル」型）と、(1) 可能表現の意味（能力可能・状況可能）、(2) 動詞+使役の助動詞（「来させる」「食べさせる」）、(3) 補助動詞（「教えてあげる」「手伝ってあげる」）との関係を明らかにすることを目的とする。

2.2 調査対象及び調査実施期間

本研究では、「ら抜き言葉」は若い世代でもっとも使用が多いという先行研究の報告に基づいて（井上・1991，加治木・1996等）、母語話者は、首都圏出身（東京都33名・埼玉県27名・神奈川県19名・千葉県9名）の10代後半～20代後半の若年層話者88名を対象にした。日本語学習者は、日本語能力試験を目安とし、1級合格以上のレベルを前提とし、母語話者となるべく近い年齢層の、アジア圏から日本へ来た留学生を対象とした。学習者の国籍・人数は、韓国（22名）・中国（19名）・台湾（15名）で、計56名である。調査は2002年11月～2003年7月に実施した。

2.3 調査方法

調査は、調査票を用いたアンケート法で実施した。「降りる」「飛び降りる」「来させる」「食べさせる」「教えてあげる」「手伝ってあげる」の6つの動詞の可能表現について、(1)「ーレル」型・「ーラレル」型、(2)能力可能・状況可能、(3)肯定形・否定形、それぞれの文例を提示した。6×2×2×2の合計48文例である。さらに、補助動詞については、次の2文を加えた。

49. いままで何の失敗もなくこの世の中を渡って来られたのよ。

50. いままで何の失敗もなくこの世の中を渡って来れたのよ。

調査票では、以上の 50 文例を提示した。

インフォーマントには、「次の可能表現の文例のうち、あなたが日常の会話の中で使っている表現にチェックしてください」と指示した(調査票の詳細は、資料を参照)。

3. 結果と考察

48 個の動詞の回答率の結果は、次の表 1 のようにまとめられる。

3.1 節からの分析は、表 1 の結果を基に進めていくことにする。

表 1: 各動詞別の回答率

(単位: %)

動 詞	番号	能力可能の回答率		番号	状況可能の回答率	
		母語話者	日本語学習者		母語話者	日本語学習者
降りられる	1	63.6	73.2	7	69.3	69.6
降りれる	13	77.3	55.4	19	83.0	60.7
降りられない	25	79.6	83.9	31	71.6	76.8
降りれない	37	79.6	48.2	43	81.8	42.9
飛び降りられる	2	56.8	62.5	8	45.5	50.0
飛び降りれる	14	54.6	48.2	20	50.0	44.6
飛び降りられない	26	50.0	60.7	32	39.8	57.1
飛び降りれない	38	64.8	33.9	44	68.2	25.0
来させられる	3	47.7	26.8	9	67.1	28.6
来させれる	15	11.4	12.5	21	11.4	16.1
来させられない	27	78.4	46.4	33	77.3	41.1
来させれない	39	8.0	10.7	45	8.0	14.3
食べさせられる	4	71.6	55.4	10	95.5	66.1
食べさせれる	16	23.9	26.8	22	26.1	41.1
食べさせられない	28	84.1	66.1	34	85.2	67.9
食べさせれない	40	18.2	25.0	46	19.3	32.1
教えてあげられる	5	78.4	69.6	11	67.1	73.2
教えてあげれる	17	64.8	41.1	23	54.6	42.9
教えてあげられない	29	77.3	76.8	35	77.3	71.4
教えてあげれない	41	55.7	33.9	47	54.6	28.6
手伝ってあげられる	6	50.0	44.6	12	68.2	58.9
手伝ってあげれる	18	52.3	39.3	24	48.9	44.6
手伝ってあげられない	30	76.1	75.0	36	69.3	62.5
手伝ってあげれない	42	50.0	28.6	48	52.3	30.4

* 表の番号はアンケートの文例番号である。

3.1 可能表現の意味による分析

本研究の調査では、能力可能・状況可能それぞれについて、「ーレル」型・「ーラレル」型の文例を提示し、インフォーマントが日常会話で使うものを複数回答で選ばせた。その回答数をカウントし、回答率を算出した。これは、能力可能・状況可能それぞれについて、「ーレル」型・「ーラレル」型、どちらの可能表現をよく使っているのかを、明らかにするための調査である。

図1は母語話者、図2は日本語学習者の能力可能・状況可能と「ーレル」型・「ーラレル」型との関係を、まとめたものである。

* 図中の、「能力可能>状況可能」は能力可能の方の回答数が多いことを、「能力可能=状況可能」は回答数が同じであることを、「能力可能<状況可能」は状況可能の方の回答数が多いことを、それぞれ示す。(単位: %)

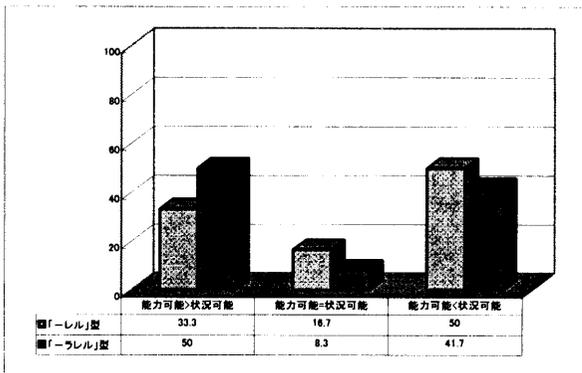


図1：可能表現の意味と回答率（母語話者）

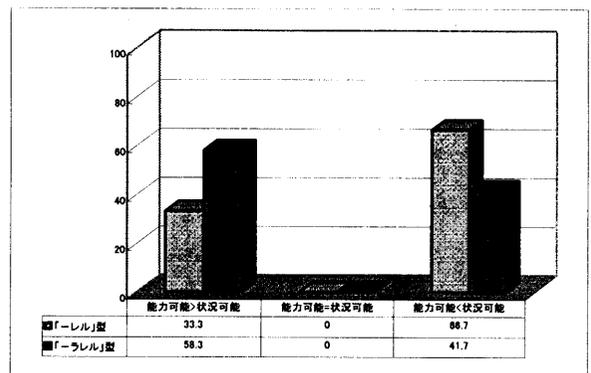


図2：可能表現の意味と回答率（日本語学習者）

図1の母語話者の結果をみると、「ーレル」型においては、能力可能より状況可能の回答率が高い動詞（50.0%）が多く、「ーラレル」型においては、状況可能より能力可能の回答率が高い動詞（50.0%）が多かった。しかし、可能表現の意味と可能表現の形の関係について χ^2 検定の結果、関連はみられなかった[$\chi^2(2) = 0.1, n.s.$]。

図2の日本語学習者の結果をみると、「ーレル」型においては、能力可能より状況可能の回答率が高い動詞（66.7%）が多く、「ーラレル」型においては、状況可能より能力可能の回答率が高い動詞（58.3%）が多かった。しかし、可能表現の意味と可能表現の形の関係について χ^2 検定の結果、関連はみられなかった[$\chi^2(2) = 0.67, n.s.$]。

この結果に基づき、本研究の結果にみる限りでは、母語話者の間でも、日本語学習者の間でも、可能の意味による可能表現の使い分けは行われていないと結論できよう。

3.2 動詞+使役の助動詞の可能表現の分析

本節では、動詞+使役の助動詞の可能表現としての「-レル」型の使用傾向をみてみる。本研究では、動詞+使役の助動詞の「-レル」型の回答率を調べるため、「来させる」「食べさせる」の2つの例を用意し、調査を行った。

図3と図4は母語話者の結果、図5と図6は日本語学習者の結果をまとめたものである。各表現は能力可能と状況可能に分け、その結果を示した。

(単位: %)

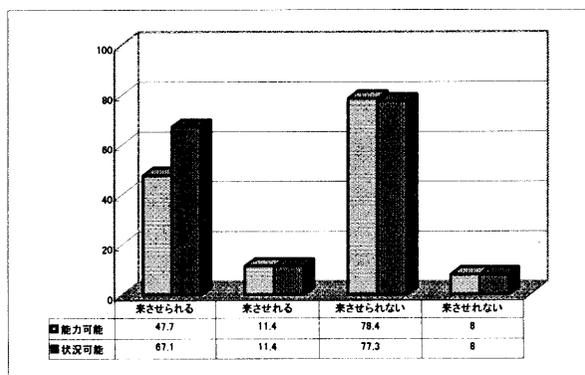


図3:「来させる」の回答率(母語話者)

(単位: %)

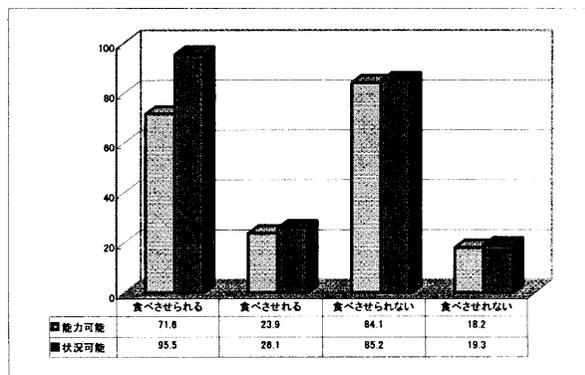


図4:「食べさせる」の回答率(母語話者)

(単位: %)

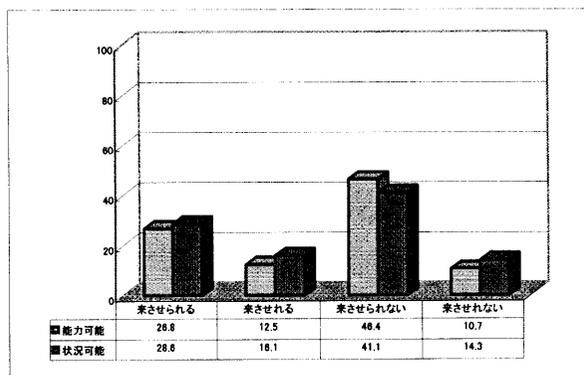


図5:「来させる」の回答率(日本語学習者)

(単位: %)

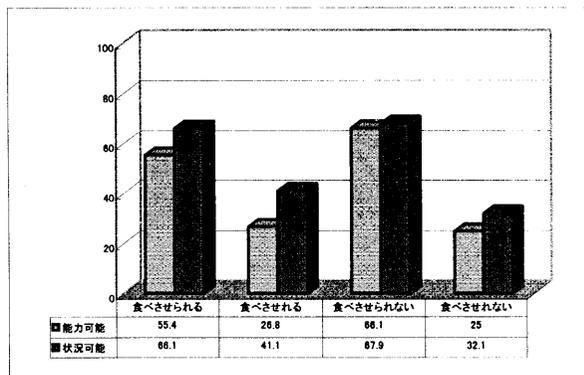


図6:「食べさせる」の回答率(日本語学習者)

図3と図4の母語話者の結果をみると、「来させれる」(11.4%、11.4%、能力可能と状況可能の順、以下同様)、「来させれない」(8.0%、8.0%)、「食べさせれる」(23.9%、26.1%)、「食べさせれない」(18.2%、19.3%)となっている。

図5と図6の日本語学習者の結果をみると、「来させれる」(12.5%、16.1%、能力可能と状況可能の順、以下同様)、「来させれない」(10.7%、14.3%)、「食べさせれる」(26.8%、41.1%)、「食べさせれない」(25.0%、32.1%)となっている。

以上、本研究での結果からは、母語話者にも、日本語学習者にも、動詞+使役の助動詞の可能表現として「ーレル」型が使われていることが確認できた。その結果は、次のようにまとめられる。

- ①動詞+使役の助動詞も、能力可能・状況可能ともに、可能表現として「ーレル」型が使われていることが確認できた。
- ②動詞+使役の助動詞も、否定形・肯定形ともに、可能表現として「ーレル」型が使われていることが確認できた。
- ③「来させる」と「食べさせる」の比較においては、「来させる」よりは「食べさせる」の「ーレル」型の回答率が高くなっていた。「食べさせれる」「食べさせれない」に比べると、「来させれる」「来させれない」は軒並み回答率が低くなっていた。

以上の①～③においては、母語話者と日本語学習者の傾向が一致していた。

- ④「来させる」「食べさせる」における「ーレル」型の回答率は、母語話者より日本語学習者の方が高かった。動詞+使役の助動詞の可能表現としての「ーレル」型の使用については、母語話者より日本語学習者の許容の割合が高い傾向が窺えた。

3.3 補助動詞の可能表現の分析

本節では、補助動詞の可能表現としての「ーレル」型の使用傾向をみってみる。

本研究では、補助動詞の「ーレル」型の回答率を調べるため、「教えてあげる」「手伝ってあげる」の2つの例を用意し、調査を行った。

図7と図8は母語話者の結果、図9と図10は日本語学習者の結果をまとめたものである。各表現は能力可能、状況可能に分け、その結果を示した。

(単位: %)

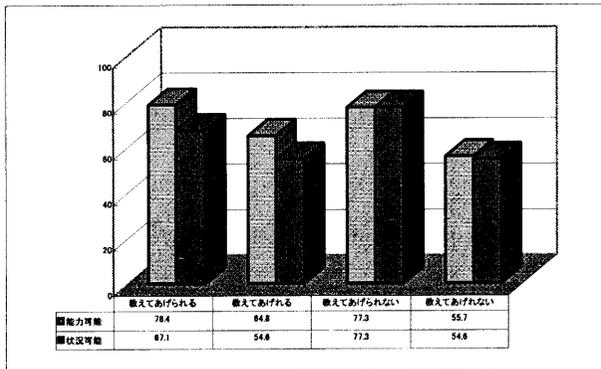


図7:「教えてあげる」の回答率(母語話者)

(単位: %)

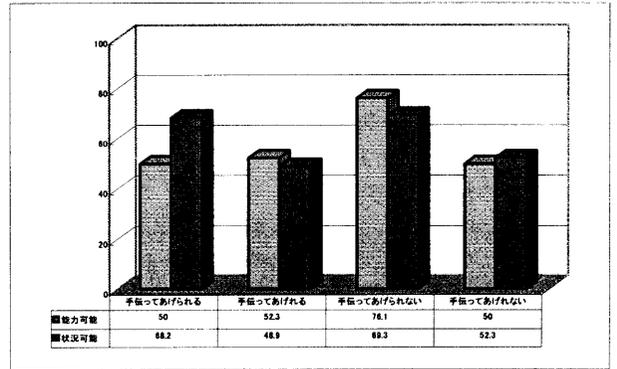


図8:「手伝ってあげる」の回答率(母語話者)

(単位: %)

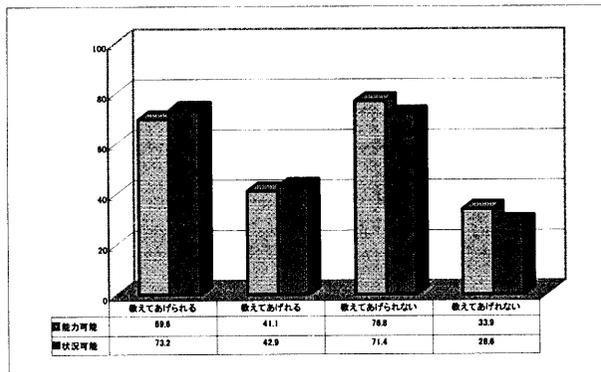


図9:「教えてあげる」の回答率(日本語学習者)

(単位: %)

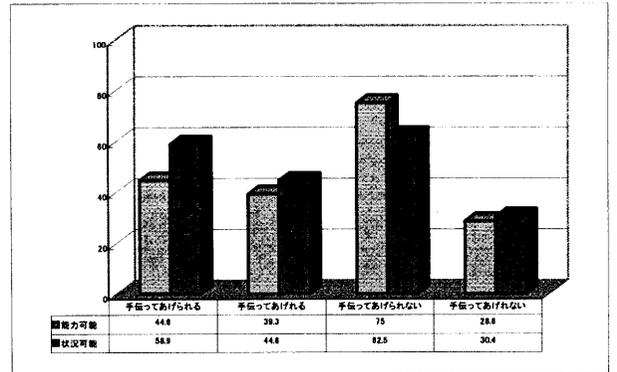


図10:「手伝ってあげる」の回答率(日本語学習者)

図7と図8の母語話者の結果をみると、「教えてあげれる」(64.8%、54.6%、能力可能と状況可能の順、以下同様)、「教えてあげれない」(55.7%、54.6%)、「手伝ってあげれる」(52.3%、48.9%)、「手伝ってあげれない」(50.0%、52.3%)となっている。

図9と図10の日本語学習者の結果をみると、「教えてあげれる」(41.1%、42.9%、能力可能と状況可能の順、以下同様)、「教えてあげれない」(33.9%、28.6%)、「手伝ってあげれる」(39.3%、44.6%)、「手伝ってあげれない」(28.6%、30.4%)となっている。

以上、本研究の結果からは、母語話者からも、日本語学習者からも、補助動詞の可

能表現としての「ーレル」型の使用を確認することができた。その結果は、次のようにまとめられる。

- ①補助動詞も、能力可能・状況可能ともに、可能表現として「ーレル」型が使われていることが確認できた。
- ②補助動詞も、否定形・肯定形ともに、可能表現として「ーレル」型が使われていることが確認できた。
- ③「教えてあげる」と「手伝ってあげる」の比較においては、両者の間でさほどの違いはみられなかった。

以上の①～③においては、母語話者と日本語学習者の傾向が一致していた。

- ④「教えてあげる」「手伝ってあげる」における「ーレル」型の回答率は、日本語学習者より母語話者の方が高かった。特に、母語話者は「ーレル」型・「ーラレル」型の回答率が接近している。一方、日本語学習者の方は「ーラレル」型に比べて「ーレル」型の回答率が低く、差がひらいている。このことから、母語話者の間では、補助動詞の可能表現として、「ーレル」型がかなり定着している様子が窺える。調査票には「教えてあげる」「手伝ってあげる」の他にも次の補助動詞の文例も提示している。

49. いままで何の失敗もなくこの世の中を渡って来られたのよ。

50. いままで何の失敗もなくこの世の中を渡って来れたのよ。

その結果をみると、「渡って来られた」(38.6%、71.4%、母語話者と日本語学習者の順、以下同様)、「渡って来れた」(92.1%、42.9%)となり、母語話者の間では、「ーレル」型の使用率が「ーラレル」型の使用率を遥かに上回っていた。

4. まとめ

能力可能・状況可能における「ーレル」型と「ーラレル」型の回答率を比較した結果、本研究のデータでみる限りでは、首都圏出身（東京都・埼玉県・神奈川県・千葉県）の母語話者および日本語学習者の間では可能の意味による可能表現の使い分けは行われていないという結果が得られた。東京語における可能の意味と「ーレル」型の回答率の関係については、中田（1982）は否定しているが、加藤（1988）はそれを認めるという相反する結果が報告されているが、本研究では中田（1982）を支持する結果が得られた。

Matsuda (1993) は、「ーレル」型は動詞＋使役の助動詞、補助動詞には現れないと述べているが、本研究の結果からは動詞＋使役の助動詞にも、補助動詞にも、可能表現として「ーレル」型が使われていることが確認できた。特に、動詞＋使役の助動詞においては、可能表現として「ーレル」型が使われてはいるものの、現段階では「ーレル」型に比べ「ーラレル」型の回答率が大幅に上回っていることがわかった。しかし、補助動詞においては、可能表現として「ーレル」型と「ーラレル」型の回答率に、動詞＋使役の助動詞ほどの大差はないことがわかった。

Matsuda (1993) と本研究の結果が異なる背景として次のことが考えられる。① Matsuda (1993) は自然談話を分析しているが、可能表現は日常会話の中で、話題により出現の制限がある。まして、動詞＋使役の助動詞の可能表現の出現率は非常に低いことを考えると、自然談話での使用例を確認するためには、膨大なデータが必要となる。そのため、Matsuda (1993) のデータでは、たまたまその表現が現れなかったのか、それとも本当に「動詞＋使役の助動詞」・「補助動詞」の可能表現として「ーレル」型は使われていないのかの判断が難しい。②また、Matsuda の調査以来、大分時間が経過しているので、時間の経過とともにその使用対象動詞も、単純動詞から複合動詞及び動詞＋使役の助動詞、補助動詞にまで広がっていると思われる。③Matsuda (1993) は自然談話データを分析しており、本研究はアンケート調査に基づいている。調査方法の違いが結果にも影響している可能性も十分考えられる。

今回の調査を通し、動詞＋使役の助動詞や補助動詞にも、「ーレル」型が浸透していることなど、いくつかの新しい知見の確認ができたことが本研究の意義としてあげられる。しかし、①本研究ではアンケート形式を用い調査を行っているが、この結果は使用実態というよりは、内省による回答に近いといえよう。そのため、今後は実際の会話での使用例を収集していくことが望まれる。②また、母語話者の出身地が首都圏に限定されているなどの制限があるため、今後は他の地方出身者の間ではどのような傾向が見出せるのかを引き続き調査していく必要があるだろう。③今回は、日本語学習者のレベルによる見合わせまではできなかった。これらの3点については今後の課題としたい。

注

(1) 単純動詞は 1044 例中「ーレル」型は 222 例 (21%)、補助動詞は 108 例中 0 例、

動詞＋使役の助動詞は9例中0例、複合動詞は19例中0例となっており、「ーレル」型は単純動詞にしか現れなかった。

- (2) 辛(2003)は、単純動詞の使用率が複合動詞の使用率にどのような影響を及ぼしているのか、その傾向を調べた結果、①複合動詞の場合も可能表現として「ーレル」型が使われること、②その使用傾向は単純動詞の影響を受けていること、③単純動詞と複合動詞の可能表現の使用パターンはほぼ同じ傾向を示すこと、がわかったと報告している。

参考文献

- (1) 井上文子(1991)「男女の違いから見たことばの世代差 “標準”意識が男女差をつくる」『月刊日本語』6月号, アルク 14-18.
- (2) 加治木美奈子(1996)「“日本語の乱れ”意識は止まらない～第10回現代人の言語環境調査から②～」『NHK放送研究と調査』46巻9号, 日本放送出版協会 60-62.
- (3) 加藤和夫(1988)「現代首都圏女子大生における可能表現使用の一実態」『和洋國文研究』第23号, 和洋女子大学國文学会 110-129.
- (4) 中田敏夫(1982)「可能表現変遷に関する一検証 —現代東京の高校生の調査より—」『日本語研究』第五号, 東京都立大学国語学研究室 64-71.
- (5) 辛昭静(2002a)「『ら抜き言葉』の研究概観」『第二言語習得・教育の研究最前線—あすの日本語教育への道しるべ—』日本言語文化学会 102-119.
- (6) 辛昭静(2002b)「言語変化に対する意識と行動の比較研究—『ら抜き言葉』を例として—」『社会言語科学』第5巻第1号, 117-128.
- (7) 辛昭静(2003)「『ら抜き言葉』の使用率に影響する言語内的要因と外的要因」『計量国語学』24巻2号, 94-108.
- (8) Matsuda, K. (1993) Dissecting analogical leveling quantitatively : The case of the innovative potential suffix in Tokyo Japanese. *Language Variation and Change*, 5, 1-34.

しん そじょん/お茶の水女子大学大学院
sojung33@hotmail.com

資料

◆ 次の可能表現の文例のうち、あなたが日常の会話の中で使っている表現にチェックしてください。

1. 武ももう5歳だよ。車から一人で降りられるから手伝わなくてもいいよ。()
2. バンジージャンプは得意だから、どんなに高い所からでも飛び降りられるよ。()
3. 本当に彼を説得して、明日の5時にここに来させられる自信があるの？()
4. これ以上何も食べないと本当に危険だよ。体が持たないよ。誰か彼を説得してお粥でも食べさせられる人、いないかな？()
5. 高校生の時、数学はいつもAだったんだ。英語は無理だけど、数学なら私でよければ、いつでも教えてあげられるけど。()
6. え、パーティーの準備なの？料理は得意なので、手伝ってあげられるよ。()
7. ほら、こっちにもドアがあるよ。こっちからも降りられるよ。()
8. 下にマットが敷かれていると、飛び降りられるの？()
9. 明日、ちょうど妹も休みだから手伝いに来させられるよ。()
10. 今は赤ちゃんの口にぴったり合うスプーンがあるから、離乳食も簡単に食べさせられるよね。()
11. ごめん、そのことに関しては口止めされているの。漏らしたら私の首も危なくなるよ。
教えてあげられることなら、もうとくに教えたよ。()
12. 引越しの荷造りなの？今日は無理だけど、あしたなら手伝ってあげられるよ。()
13. 武ももう5歳だよ。車から一人で降りれるから手伝わなくてもいいよ。()
14. バンジージャンプは得意だから、どんなに高い所からでも飛び降りれるよ。()
15. 本当に彼を説得して、明日の5時にここに来させれる自信があるの？()
16. これ以上何も食べないと本当に危険だよ。体が持たないよ。誰か彼を説得してお粥でも食べさせれる人、いないかな？()
17. 高校生の時、数学はいつもAだったんだ。英語は無理だけど、数学なら私でよければ、いつでも教えてあげれるけど。()
18. え、パーティーの準備なの？料理は得意なので、手伝ってあげれるよ。()
19. ほら、こっちにもドアがあるよ。こっちからも降りれるよ。()
20. 下にマットが敷かれていると、飛び降りれるの？()
21. 明日、ちょうど妹も休みだから手伝いに来させれるよ。()
22. 今は赤ちゃんの口にぴったり合うスプーンがあるから、離乳食も簡単に食べさせれるよね。()
23. ごめん、そのことに関しては口止めされているの。漏らしたら私の首も危なくなるよ。

教えてあげれることなら、もうとっくに教えたよ。()

24. 引越しの荷造りなの？今日は無理だけど、あしたなら手伝ってあげれるよ。()

25. 武はまだ3歳だよ。車から一人では降りられないから手伝ってよ。()

26. バンジージャンプってあんな高いところから飛び降りるの？私には無理、高い所は苦手だから絶対飛び降りられないよ。()

27. いくら説得しても彼をこちらに来させられないなら、私達がむこうに行くしかないね。()

28. 彼自身が食べる気にならないかぎり、誰が説得しても何にも食べさせられないと思うよ。()

29. 助けてあげたいけど、数学は私も苦手だから、教えてあげられないよ。()

でも、それ以外に私にできることがあったら何でもいって。

30. ごめん、私も料理は自信ない。そばにいても邪魔になるだけで、何にも手伝ってあげられないと思う。
()

31. 右側は非常用なの。普段は閉まってるからそっちらは降りられないよ。()

32. こちらは下が水溜りだから飛び降りられないよ。服が汚れちゃう。()

33. 明日、妹は仕事があるから手伝いに来させられないよ。()

34. 今は赤ちゃんの口にぴったり合うスプーンがないから、離乳食もろくに食べさせられないよ。()

35. 口止めされ、あなたにも教えてあげられない私も辛いよ。()

36. 引越しの荷造りなの？ごめん、あしたなら時間があるけど、今日はバイトで手伝ってあげられないよ。
()

37. 武はまだ3歳だよ。車から一人では降りれないから手伝ってよ。()

38. バンジージャンプってあんな高いところから飛び降りるの？私には無理、高い所は苦手だから絶対飛び降りれないよ。()

39. いくら説得しても彼をこちらに来させれないなら、私達がむこうに行くしかないね。()

40. 彼自身が食べる気にならないかぎり、誰が説得しても何にも食べさせれないと思うよ。()

41. 助けてあげたいけど、数学は私も苦手だから、教えてあげれないよ。()

でも、それ以外に私にできることがあったら何でもいって。

42. ごめん、私も料理は自信ない。そばにいても邪魔になるだけで、何にも手伝ってあげれないと思う。
()

43. 右側は非常用なの。普段は閉まってるからそっちらは降りれないよ。()

44. こちらは下が水溜りだから飛び降りれないよ。服が汚れちゃう。()

45. 明日、妹は仕事があるから手伝いに来させれないよ。()

46. 今は赤ちゃんの口にぴったり合うスプーンがないから、離乳食もろくに食べさせれないよ。()
47. 口止めされ、あなたにも教えてあげれない私も辛いよ。()
48. 引越しの荷造りなの？ごめん、あしたなら時間があるけど、今日はバイトで手伝ってあげれないよ。
()
49. いままで何の失敗もなくこの世の中を渡って来られたのよ。()
50. いままで何の失敗もなくこの世の中を渡って来れたのよ。()

A study to probe into the spread of the usage of 'ra-nuki' verbs
— as used by native speakers and Japanese learners —

SHIN, Sojung

This study examines how native Japanese speakers and Japanese learners use the potential expression (both short potential forms and long potential forms), with a focus on the semantic distinction of the potential expression (physical/ situational), causative verbs, and auxiliary verbs. It is the purpose of this research to clarify the usage tendency of the potential expression.

As a result, across these two speaker groups: 1. There was no semantic distinction in the potential expression usage, 2. The short potential is used as a potential expression of causative verbs, 3. The short potential is used as a potential expression of auxiliary verbs.

(Graduate School, Ochanomizu University)